

まったが幸運にも抽選によって決勝に進むこととなった。一昨年の三重国体に続いて又全岩手との対戦となり実力の差は如何ともし難く9対34と大敗を喫して準優勝どまりとなった。

全国大会県予選においては、準決勝二試合が壮絶であった。珍しく和光高校を会場に行われ和光がリードしていた試合であったが、ロスタイムに入ってからトライを取られゴールも決められて王者熊谷工業の大漁を失ってしまった。もう一方の準決勝は浦和と行田工業の対戦であったが、10対10の引分けに終り抽選によって浦和が決勝に進んだ。熊谷工業対浦和の決勝戦も稀にみる好ゲームとなったが、熊谷工業に一日の長があり全国大会への出場となった。

全国大会においては前述の如く1回戦で又大工大との対戦となり、実力に勝る大工大は青森国体の屈辱を晴らすべく、猛烈なファイトで立ち向かって来て、0対41と一気にうっぶんを晴らされてしまった。



## 私とラグビー

昭和52年度 熊谷工業高校卒 手島 武男

私がラグビーと出会ったのは熊谷工業高校に入学した高校1年生の時でした。早いものでそれからもう15年になろうとしています。現在は県立桶川西高に勤務し、ラグビー部員を指導しています。指導の傍ら生徒と一緒に楯円球を追い、トレーニングをして現在でも埼玉教員チームで現役としてプレーを続けています。

それではここで私のラグビーの思い出についていくつか書いてみたいと思います。まず高校時代で頭に浮かんでくるのは1年生の夏合宿です。暑い中でのランパスはきつく、正直言って休みたいなどと思った時も何度かありました。他にも基礎体力トレーニング、朝の5km走、合宿最終日の25kmマラソンなど、厳しいメニューが沢山あり、とにかく合宿を最後までやり通そうと頑張ったものでした。2年生になりCTBのレギュラーとなり佐賀国体と第56回全国大会へ出場することができました。結果は、共に1回戦で大阪工大高校と対戦し敗れてしまいました。しかし、敗れはしたもの

の、特に全国大会ではあと一步の所まで食い下がり、内容的には素晴らしく満足のいく試合ができました。

3年生になり、伝統ある熊谷工業高校のキャプテンになり、責任の重さにかかなりプレッシャーを感じましたが、国体関東予選で1回戦神奈川、2回戦千葉を突破して青森国体へ出場することができ、とりあえずホットしました。10月の青森国体では1回戦で優勝候補の大阪府（大阪工大高）と対戦しました。前半は好ディフェンスで良く耐え、後半の残り5分でチャンスを生かしボックスのオープン攻撃で逆転トライを挙げて、三度目の対戦で初めて勝つことができました。続いて2回戦で岐阜県に勝ち、決勝へ進みました。決勝戦では全岩手に敗れ国体初優勝は成りませんでした。全国大会に向けてかなり手応えを感じて国体を終えることができました。そしていよいよ高校生最後の大会、第57回全国大会予選が10月から始まりました。やや苦戦をしながらも県予選を突破し、北関



東大会に駒を進めました。北関東大会では群馬県代表の高崎高校を52対9で下して全国大会の出場権を得ることができました。第57回全国大会ではまたしても1回戦で大阪工大高と当たり、私自身4回目の対戦となりました。試合は雨の中で行なわれ、軽量FWで展開を得意とする私達のチームは前半こそ耐えて頑張りましたが、後半重量FWとアップアンドアンダー攻撃で得点を取られ、大敗を喫してしまいました。高校時代最後の試合としては大変悔いの残るものとなってしまいました。しかしながら高校3年間で経験した事やラグビーを通して多くの友人を得る事が出来た事は私の大きな財産の一つとなっています。

そして現在は桶川西高校に勤務しており、赴任

と同時に創ったラグビー部を指導して8年目になります。初めは私自身がやってきた厳しい練習をやってゆけば必ず強いチームになると安易に考えていましたが、現実には逆に厳しい練習をすると辞めたいと言ってくる者、練習を休む者が続出し、また他にも部員の確保などの練習以前の問題が多くていやという程指導の難しさを痛感しました。特にメンバーが15名揃わず試合が組めない時などは、こんな事もあるのかと考えさせられたものでした。最近では指導方法を少し工夫して、生徒の現状をふまえて、生徒が常に「やる気」を持って練習できる環境作りを心がけて、計画をたてて焦らずチーム作りをしています。

ここまでラグビーの思い出や指導の難しさを書いてきましたが、私はラグビーというスポーツに出会う事ができ、そしてラグビーの素晴らしさを経験できて本当に良かったと思っています。このラグビーの素晴らしさをこれからも一人でも多くの生徒に経験させていきたいと思っています。最後になりましたが、高校時代から現在に至るまで沢山の先生方やラグビー関係の人達に御指導いただいた事を深く感謝しております。今後益々埼玉県県のラグビーが発展することを期待しております。

## 青森国体の思い出

昭和52年度 浦和高校卒 今尾 正純

私は昭和50年～52年にかけて、府瀬川秀夫先生、小畔東先生の御指導のもと県立浦和高等学校ラグビー部に籍を置いておりました。当時はまだ埼玉県下の高校ラグビー部が約30校程度であったこともあり、浦和高校も強豪熊谷工業、行田工業と鎗を削り合って常時県大会の準決勝、決勝に進出しておりました。

浦和高校ラグビー部は県内で一番古い歴史をもっておりましたが、当時部員数は30名程度で新人戦の時期になると非常にチーム作りに苦労していたことが思い出されます。

私は小・中学校とサッカー部でプレーしていたこともあり、キック力には自信を持っておりました。高校3年の時にジャパンの選考合宿、また、青森国体の代表チームである熊谷工業高校から強